

ふるさとやまがたの課題に立ち向かうグローバルリーダーの育成

将来、地域の課題に立ち向かうグローバルリーダーとして国内外で活躍する人材を育成するために、地域の行政機関や専門組織、大学等研究機関、企業等と協働して教育プログラムを開発する。具体的には地域とのコンソーシアムを構築しながら「山東探究塾」（総合的な探究の時間）等の取組及び授業改善を行う。

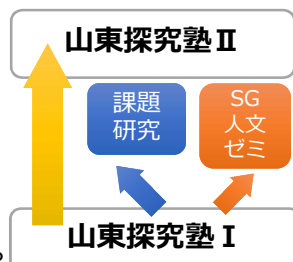


管理機関である山形県教育委員会の下、山形県立山形東高等学校が、山形市、公益社団法人山形県観光物産協会、東北芸術工科大学、独立行政法人国際協力機構(JICA)東北、山形経済同友会とのコンソーシアムを構築し、連携機関として山形大学と東北大学の協力を得ながら、地域と協働して、目指す人材育成のための教育プログラムを実践している。また、運営に当たっては、上智大学教授 奈須正裕氏、山形大学准教授 森田智幸氏、一般社団法人i.club代表理事 小川悠氏その他、地域・保護者代表として鈴木浩一氏・米本泰氏の指導・助言を受けながら研究開発に取り組んでいる。



令和元年度の目標

- * 授業中心主義の伝統を継承し、全授業で探究型学習を取り入れながら、確かな基礎学力と高い英語コミュニケーション力を身に付けさせる。
- * 1年次の「山東探究塾Ⅰ」で習得した探究スキルを基に、2年次の「山東探究塾Ⅱ」（探究科はさらに「課題研究」と「SG人文ゼミ」）において、生徒全員が自ら設定した課題について、地域と協働しながら解決を図る探究活動を実践する。
- * 国際探究科を中心としたシンガポール海外研修を実施する。



取組状況

- * 全教科で探究型学習の研究授業を実施し、他教科の授業を互観する目標の達成率は100%であった。
- * 2年次生全員に、地域コンソーシアム機関や連携協力機関等と協働しながら課題研究に取り組みせ、93本の研究成果を内外で発表した。
- * 海外研修や各発表会において、自らの研究を英語で発表した。（20本）

成果と課題

- * 探究型学習のさらなる推進とともに、教科横断を意識した教材開発について、外部指導者を招聘して早期に職員研修会を開催する。
- * 「山東探究塾Ⅱ」の成果をまとめ、自らの進路実現や在り方・生き方に活かすような「山東探究塾Ⅲ」の教育プログラムを構築する。
- * 地域課題への取組と地域参画によって生まれた自己効力感を基に「ふるさとやまがた」に思いを寄せながら、困難な課題に立ち向かおうとするグローバルリーダーの資質を養う。

